平成２７年９月１０日

伊豆の国市長　小野　登志子　様

伊豆長岡駅周辺将来構想策定委員会
委員長　　野　原　　卓

「伊豆長岡駅周辺将来構想　提言書」について

伊豆長岡駅周辺将来構想に係る提言書を別紙のとおり提出します。

伊 豆 長 岡 駅 周 辺 将 来 構 想
提 言 書

平成２７年９月

伊豆長岡駅周辺将来構想策定委員会

目　次

前文 …… 1

１．駅周辺の現状・動向と取組の方向性 …… 2

２．駅周辺における取組施策の将来イメージ …… 3

３．駅周辺将来整備構想 …… 4

４．将来構想の実現化へ向けて …… 5

委員名簿・会議開催経緯 …… 6

ー 前 文 ー

本市は平成１７年に伊豆長岡町、韮山町、大仁町の３町が合併して誕生し、本年４月には合併１０周年を迎えました。この間、新市建設に関わるさまざまな取組が行われ「伊豆の国市」としての骨格が形成されるとともに、市民においても、新たな郷土愛が育まれてきたところです。

また、市内には伊豆長岡温泉や数々の史跡群を擁し、古くから観光都市としても栄えてきました。折しも平成２７年７月５日には、国指定史跡である韮山反射炉の世界遺産登録が決定し、本市の観光にもますます弾みがつくことが期待されています。

しかし実態をみると、全国的な傾向である人口減少、高齢化、中心市街地商業の衰退といった問題は本市も例外ではなく、市のマスタープランにおいて「都市拠点」と位置づけられている伊豆長岡駅周辺でさえも活気が失われているほか、「温泉地の玄関口としての風情が感じられない」といった来訪者の声が聞かれるなど、求心性という面で大きな課題を抱えていることも事実です。

このような現状や社会動向を踏まえ、来るべき人口減少社会に対応していくためには、行政サービス機能をはじめとする都市機能の配置の見直しなどにより、コンパクトで利便性の高いまちづくりが必要で、その核となるべき拠点の育成は最も重要な課題といえます。

こうした背景から、伊豆長岡駅周辺将来構想策定委員会が設立され、平成２６年１１月の第１回委員会以降、４回の会議を経て、「都市拠点」と位置づけられる伊豆長岡駅周辺の将来のあるべき姿について議論を重ねてきました。

都市拠点には多様な機能が求められますが、最も基本となる「市民生活」を支える機能、今後の人口減少下において地域経済の新たな担い手となるべき「観光」を支える機能、そして両機能が円滑に発揮されるべく、「交通」の面から支援する機能の３つの視点を設け、それぞれに関する現状を分析した上で、短、中、長期における将来像を提案しました。

ここで提案した内容は多分に網羅的で、事業費やその他の条件を踏まえると、そのすべてが実現できるものではありませんが、今後は市民、事業者、行政等が一体となって、さらなる具体化のための取組を精力的に行っていただき、市の玄関口としてふさわしい機能、景観整備にまい進していただくことを希望いたします。

なお、委員会開催に先立ち、検討会において問題点の洗い出しや種々の前向きなご提案をいただいた地域住民の方々、関係機関・団体の方々、ならびに庁内関係者の方々に、改めて御礼申し上げる次第です。

伊豆長岡駅周辺将来構想策定委員会

１．駅周辺の現状・動向と取組の方向性

伊豆箱根鉄道駿豆線の伊豆長岡駅は、伊豆の国市の玄関口であり、都市計画マスタープランにおいて駅周辺は「都市拠点」と位置づけられ、市民生活の要となる都市機能の集積を図っていくこととされています。

また、古くから親しまれている伊豆長岡温泉や、このたび世界遺産登録が決定した国指定史跡の韮山反射炉をはじめとする、観光スポットへのアクセス拠点としても重要な役割を持っています。

しかし、現状の伊豆長岡駅周辺をみると、銀行や郵便局など一部の生活関連サービスが立地しているものの、行政や生活支援サービスなどの都市機能の集積はほとんどみられず、商店街についても、市の中心あるいは観光拠点としての賑やかさはみられません。伊豆長岡温泉についても、施設の更新の遅れなどの影響から、温泉街全体として活気が低下しているとの指摘があります。

また、駅舎が西側にあり、駅東側から直接アクセスできないことに加え、駅周辺の踏切は狭く、道路も国県道の一部で拡幅整備が行われているほかは全体的に細街路が多いことから、歩行の安全性や快適性が低い状況にあります。

さらに、駅南方に位置する反射炉踏切は、国県道が交わる交差点と踏切とが接近しており、恒常的に渋滞が発生しているほか、遮断器が降りた踏切内に車が取り残され、列車が緊急停止するといった事案も少なからず発生しており、渋滞緩和にとどまらず、安全・快適な道路交通環境の整備が喫緊の課題となっています。

このように、現状で多くの問題・課題を抱えている伊豆長岡駅周辺ではありますが、地域のもつ資質や、社会動向など外的環境の変化を踏まえると、今後における明るい方向性も見えてきます。

地域の持つ資質としては、首都圏から２時間圏内、新幹線や高速道路といった幹線交通網から 30 分圏内、港（沼津港）まで 30 分圏内という地理的な好条件が挙げられます。加えて市内に鉄道駅が５駅存在し、電車の運行もほぼ終日、１時間に４本程度の高頻度で運行されているなど良好なアクセス条件が整っており、市内外の移動の利便性は高いといえます。

また、世界遺産登録が決定した韮山反射炉や伊豆長岡温泉などの知名度の高い観光資源が立地するほか、伊豆地域全体の基幹病院である順天堂病院が立地するなど、居住面のみならず、観光集客面でも良好な条件を多く備えています。

さらに外的環境の変化については、富士山及び韮山反射炉の世界遺産登録といった、観光入込客の増加を促す状況変化、東駿河湾環状道路の整備によるアクセス向上、国におけるコンパクトシティ化を中心とする地方創生支援の動きなどがあげられます。

こうした資質や外的環境の変化動向は、伊豆長岡駅周辺整備構想において積極的に活用していくべきものと考えます。

以上述べたような現状認識を踏まえると、伊豆長岡駅周辺においては、今後、次の３つの目標に向かって各種取組を進めていくことが必要と考えます。

【目標１】伊豆長岡駅の拠点性を高める

伊豆長岡駅は伊豆の国市の玄関口であり、都市計画マスタープランにおいては駅周辺が「都市拠点」と位置づけられていることから、今後は駅および駅周辺地区の拠点性を向上させていく必要があります。

拠点性については、大きく「生活拠点」「観光拠点」及び「交通拠点」の３つの顔について、方向性や求められる機能を検討していくことが考えられます。

【目標２】商業および温泉街の活性化を図る

駅周辺整備を起爆剤として、駅周辺地区における商業および伊豆長岡温泉街を活性化することが必要です。

区画整理や再開発などの大規模かつインパクトあるプロジェクトについては、諸条件を勘案しながら慎重に検討する一方、ソフト施策を中心とする取組については、先進事例に学びつつ、“やる気”のある商業者・経営者などの知恵を絞り、積極的な展開を図っていくことが期待されます。

【目標１】とは関連が深いため、有機的に連携していくことが必要です。

【目標３】交通の円滑性、快適性、安全性を高める

反射炉踏切・反射炉入口交差点における渋滞問題については、広域のう回誘導などのソフト的な対策に加え、鉄道と道路の立体交差化についても前向きな検討を行っていくことが望まれます。

また、韮山反射炉をはじめとする観光拠点や、駅周辺の公共・公益施設等に対する案内誘導のさらなる充実を図っていく必要があります。

２．駅周辺における取組施策の将来イメージ

目標１、２、３に基づき、駅周辺における取組施策の、具体的な将来イメージを示すと次のとおりです。

伊豆長岡駅を生活・観光・交通の拠点として位置づけ、駅や駅直近及びその周辺においては利便性の高い高度な機能を集約配置し、市民や観光客へのサービス機能を担います。

東西方向を中心とする端末二次交通軸を整備し、徒歩、自転車、バス等による利便性の高いアクセス機能を提供するとともに、韮山反射炉、江川邸、伊豆長岡温泉等の近傍に立地する観光拠点を周遊バス、観光タクシー、レンタサイクル等でネットワーク化します。

駅周辺の交通渋滞緩和を図るため、短期的にはパークアンドライドなどのソフト施策を展開するとともに、中長期的には、より抜本的な鉄道の立体化（高架化）に取組み、渋滞緩和のみならず、高架下の活用による拠点機能の強化や、道路網の再整備による駅東西方向の移動利便性の向上などを目指します。

なお、高架化については多くの事業費や事業期間を要し、関係する主体との各種調整事項も多いことから、必ずしも高架化のみに執着することなく、例えば、橋上駅化とソフト的な渋滞対策を組み合わせることによって部分的な課題解決を図るなど、柔軟な対応を行っていくことが望まれます。

３．駅周辺将来整備構想

（１）伊豆長岡駅の都市拠点化に係る施策

生活拠点としての機能性を高めるため、駅直近において拠点的機能の導入整備を図る必要があります。

他都市事例や市民ニーズなどを踏まえると、具体的には、市役所窓口機能、健康・福祉・子育て支援機能、ホール・集会機能、教養・学習機能（図書館機能、生涯学習機能等）、公共サービス機能（郵便局・金融機関ＡＴＭ等）、物販・サービス提供機能、“たまり場”機能等が適するものと想定されます。

観光拠点としての機能性を高めるため、駅直近において観光交流・情報拠点機能の導入整備を図る必要があります。具体的には観光案内所機能、展示・ＰＲ機能、物販（みやげ物等）機能等の導入が必要と考えられます。

このほか、より観光拠点としてのポテンシャルを高めるため、単身者向け宿泊機能の導入、市営韮山温泉等のリニューアルと合わせた保養・交流機能の導入、生鮮品等物販機能（マルシェ等）の導入、伊豆長岡らしさを演出する景観の整備といった取組についても積極的に進めることが期待されます。

交通拠点としての機能性を高めるため、駅舎内や駅前広場等において、市内及び観光地等へのアクセス拠点機能の導入整備を図る必要があります。

具体的には、結節機能の強化という視点では、現駅前広場の再整備によるバス、タクシー、一般車、送迎バス等の乗降・待機環境の向上、東口の新規整備等、駅東側のアクセス環境の向上等が必要と考えられます。

また、駅周辺も含め、散策ルートの歩行者・自転車通行環境の整備、駐車機能の強化といった整備も望まれます。

一方、鉄道を降りた後の二次交通サービスの強化という視点では、レンタサイクルの充実、観光地周遊バスや観光タクシー・乗合タクシーの導入・拡充といった整備も望まれます。

さらに、観光案内所機能の強化の一環として、観光ルートのＰＲや交通手段選択に関するアドバイスを行うコンシェルジュ機能の導入も重要な戦略と考えられます。

（２）商業・温泉街の活性化に係る施策

駅周辺商業の活性化を図るため、市民や観光客などが“そぞろ歩き”を楽しむための環境整備を行っていく必要があります。

こうした取組を推進するため、商店や飲食店などの一定の集積があるエリアを「重点整備エリア」として定めたうえで、空き店舗活用、高架下活用（鉄道高架化を行った場合）、回遊促進のための整備（案内サイン設置、案内マップ作成等）を行っていく必要があります。

また、伊豆長岡温泉の活性化については、伊豆長岡駅と地理的に離れていることを勘案し、観光案内所機能の強化の一環として、観光案内所において温泉街の案内・ＰＲを強化したり、コンシェルジュ機能を活用して適切な交通手段をアドバイスするなど、おもてなしの心にもとづく対応強化を進めていくことが必要と考えます。

（３）交通の円滑性、快適性、安全性を高める施策

韮山反射炉の世界遺産登録に伴い、休日を中心とする観光入込交通が急激に増加すると考えられることから、可能な取組から速やかに対策を推進していくことが必要です。

短期的には、マイカーからシャトルバス等に乗り換える「パークアンドライド」や、カーナビを活用した広域的なう回誘導などの施策を積極的に活用するとともに、中長期的には、抜本的な対策と考えられる鉄道の立体化（高架化）について、前向きな調査検討を進めることが望ましいと考えます。

その際、高架化によってもたらされる便益は交通渋滞の緩和にとどまらず、高架下活用等による駅周辺のまちづくりへの寄与、駅周辺道路網の再整備による利便性、安全性、快適性の向上など、様々な波及効果がある点について、関係者間の認識を共有していく必要があります。

また、観光客や市民が安心して快適に歩けるよう、案内サインや歩行環境のさらなる整備を行っていく必要があります。

４．将来構想の実現化へ向けて

これまで述べた将来構想の実現化へ向け、今後においては、次のような取組によって具体的な「基本計画」を策定していく必要があります。

取組例としては、地域住民、関係事業者、学生、ボランティア等による検討会やワークショップ等を通じた、より詳細かつ具体的な意見の集約、まちづくり専門家や地方創生コンシェルジュ等による専門的なアドバイスの導入、試行実験等による体験、市報、自治会、ホームページ等を通じた多様な情報提供及び意見収集といった取組が考えられます。

いずれにせよ、行政主導ではなく、地域住民や市民、さらには観光客を中心とする来訪者などの意見を最大限反映した官民協働作業により、本市の玄関口としての機能性、シンボル性を高めていく姿勢が重要といえます。

委員名簿・会議開催経緯

＜委員名簿＞

（平成 27 年 7 月 15 日現在　敬称略）

区分	団体名	所　属	係名・役職名	氏　名
委員長	横浜国立大学	大学院	准教授	野原　卓
委　員	市民	南條区　駅前町会	前会長	石井　宏昭
		駅前商店	店主	西原　宏幸
	伊豆の国農業協同組合	総務部	部長	本多　隆幸
		総務部　総務課	課長	菅沼　学
	伊豆箱根鉄道株式会社	企画室	次長	大沼　光彦
		鉄道部　技術課	課長	阿久津　亨
			主任	九嶋　徹
	伊豆の国市商工会		副会長	秋田　辰彦
		青年部	監事	武田　友良
		南條支部（女性）	班長	後藤　真由美
	伊豆長岡温泉旅館協同組合	事務局	事務局長	原　　豊
	伊豆の国市観光協会	事務局	事務局長	相磯　和男

区分	課　名	係　名	氏　名
事務局	政策推進課	政策推進係	小川　和弘
	政策戦略課	政策戦略係	大澤　努 （芹沢　豊孝）
	世界遺産推進課	世界遺産係	秋山　貴宏
	文化振興課	文化振興係	高崎　みずき
	観光課	観光企画係	杉山　由美 （杉本　利彰）
	農業商工課	農業振興係	小澤　竜哉 （山口　新哉）
		商工係	清水　重貴 （稲葉　寿夫）
	学校教育課	指導係	久保田　徹也 （平野　好一）
	建設課	土木係	住谷　友樹 （渡辺　一仁）
	都市計画課	都市政策係	西島　和仁

事務局（石野部長、西島課長）、中央開発株式会社　　注）（　）内は前任者

＜会議開催経緯＞

日時・場所	会議名	主な議題
H26. 8.18(月) 19:00～20:30 於 南條区公民館	地元検討会	・問題点の洗い出しについて
H26. 8.27(月) 13:30～15:00 於 本庁３階　第１、２会議室	庁内検討会	・問題点の洗い出しについて
H26. 9.18(木) 14:00～15:30 於 本庁３階　第１、２会議室	関係団体検討会	・問題点の洗い出しについて
H26.11.18(火) 14:00～15:40 於 本庁３階　第１、２会議室	第１回委員会	(1)地域の課題と目指すべき方向性について (2)構想策定の視点と施策メニュー（案）について (3)その他
H27. 1.27(火) 10:00～12:00 於 本庁３階　第１、２会議室	第２回委員会	(1)将来構想の施策メニュー（案）について (2)その他
H27. 3.17(火) 15:30～17:00 於 あやめ会館　２階会議室	第３回委員会	(1)伊豆長岡駅周辺の都市拠点化に係る施策メニュー（案）について (2)反射炉踏切の渋滞対策に係る施策メニュー（案）について (3)その他
H27. 7.15(水) 15:00～17:00 於 あやめ会館　２階会議室	第４回委員会	(1) 伊豆長岡駅周辺将来構想（案）について (2)実現化へ向けた今後の取組方向について (3)提言書について (4)その他

＜小野市長へ提言書を手渡す野原委員長（平成 27 年９月 10 日）＞

＜新聞記事（平成 27 年９月 30 日付 建通新聞）＞

地域NEWS

伊豆の国市長に提言書提出

伊豆長岡駅周辺将来構想策定委

伊豆長岡駅周辺将来構想策定委員会（委員長・野原卓横浜国立大学准教授）は10日、伊豆の国市の小野登志子市長へ伊豆長岡駅周辺の活性化に向けた提言書を手渡した。業務の取りまとめは中央開発静岡支店（静岡市駿河区、渋谷博支店長）が担当。

同市は首都圏からも近く、韮山反射炉が世界文化遺産に登録されるなど、観光に弾みがつくことが期待されている。しかし、駅前広場とその周辺は、温泉街と駅が離れていることもあり、観光都市としての魅力に欠けているのが現状。

小野市長（左）と野原委員長

同委員会は、最も基本となる「市民生活」を支える機能、地域経済の新たな担い手となるべき「観光」を支える機能、そして両機能が円滑に発揮される「交通」の3視点から現状と課題を分析。市の玄関口としてふさわしい機能、景観整備、さらに世界文化遺産と温泉地にふさわしいまちづくりに向けた短、中、長期の施策を提案した。